

無農薬で元気でうまい野菜を育てるには

1. 有機物投入後1か月以上待つて植える。つまり収穫終了直後にお礼として入れる。

1ヶ月は最短期間です。1ヶ月で浄化できる条件…土が適度に湿っている、土の温度が保たれる、入れる生ゴミが腐敗していない、細かい、10数cm以内の浅さで十分に土と混和

※油粕魚粉など粉末資材は、土によく混ぜたら2週間程度でOK。堆肥は1年以上前に購入し、乾かない状態で寝かせてから土に混ぜる。

2. 病害虫は大切な鑑定人

…土、野菜の出来を教えてくれるちょっと厳しい鑑定人です。虫や菌のせいにしてしないで病害虫が来てくれた原因を考える。

考えられる原因例…土の未浄化、未熟堆肥、草(ミネラル)不足、連作、匂からずれている、収穫適期すぎ、酸性雨、排水が悪い、日照不足、生雑草の埋め込み、深層土の未改良、根の弱り、植物の老化

3. 草は宝物

…土がバッテリーなら草は太陽光発電装置

草には次のような利点がある。

①太陽エネルギーを自分の葉や根に毎日貯蔵し続け、枯れたら土の生き物たちのえさになる。燃やさず表面に敷く。草は朽ちて土壌中の腐植になり、やがて野菜に利用される。

②微生物、小動物が多様化するので病虫害を抑える。

③自力で生きる草は、野菜よりも強力に土中のミネラルなどを溶かして吸収している。それが葉先から漏れ出て(リーチング)周囲の野菜に可吸態ミネラルを供給することになる。

④自生した草は、その場所の土作りに最適の材料。

※町内や学校などの除草、河川敷や道路わきの草刈で出た草は、ゴミにしてしまうなんてもったいない。是非活用を。

詳しい活用法は『生ごみリサイクル元気野菜作り』(500円)

※常に雑草をこまめに取った畑は、土の養分を保つ能力も弱くなり、ミネラル不足で、やせ細っている。そんな畑には、スギナや、ゴウブシ、スズメノカタビラなど単子葉類(葉が細い)が優先しやすい。対策は、とにかくたくさんの草を持ち込み畑に積み上げ、寝せておく。特にタネの実った草はミネラルなどの成分が多い。数ヶ月

で草はぼろぼろになるので、それを土に混ぜると土が蘇る。理想的な畑の草は、ハコベ、ナズナ、ホトケノザなどの双子葉類が優先しやすい。

※草が野菜より背が高くないよう手助けをする。

例…1、除草タイミングや除草程度を、野菜や季節に応じて判断する。2、翌日の天気や草の種類によって、再び根付くかもしれない場合は、取った草は点々と山にして置いておく。3、芽だしてから種まきする。4、整地していったん雑草を発芽させ、三角クワで削り取ってから耕さずに種まきする。

4. 排水を徹底する。

土に酸素のない状態が数日続くと、土壌中の生物が死に、土が腐敗に転じて害虫等と呼ぶ。

・深い溝を掘り、その溝に雨水がたまらずに、すぐに畑の外に流出するように高低を整える。

・溝を掘ると水が貯まる場合は、通路幅をウネ幅の2倍とって、思い切ってウネを上げて、不耕起栽培にする

5. 常に土を光にさらさない

太陽光が直接土の表面にあたると、微生物が土の表層にいなくなり、雨が直接当たり土壌表面の通気性がに悪くなり、また地温の変化が激しくなる。除草しすぎない。ウネ全体に大量の草やモミ殻を敷く

6. 海の恵みを利用…有機(カキガラ)石灰、貝殻、海草、にがり5000倍 海水1000倍

7. 露地野菜は強い…紫外線、低温、風雨が栄養価、生命力を上げる。(やむを得ず雨よけする場合は紫外線の透過するPO系フィルムを)

8. 秋野菜植付時期の酸性雨に注意…草木灰(即効性)、カキガラ石灰を表面にまいておく。

9. 追肥に注意…ボカシなど未熟有機物の追肥は腐敗して病害虫を呼びやすい。待ち肥を浅くやっておくか、浅く広く薄くまく。または別の場所で発酵、完熟したものを使う。

コマツナ、ハウレンソウ、大根、人参など秋冬野菜は、生育後半の追肥をしなければ、甘くて後味が良くなる。

10. その他…炭の活用、耕うんの時期、速度、深さに注意。本質的な味のよさは、品種ではなく土で決まる。接木ではなく自根苗を。病害虫が心配な場合は予防的な植物活力剤散布。

大地といのちの会 吉田俊道